

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.18

会員の皆様へ

3年ぶりに政権交代がまた起きました、産業界、金融界、マスメディア等、立ち位置や指向性が昨年とは大きく変化しそうです、仕方がないことかも知れませんが、我々技術者は、自然科学にのっとり行動します、どこかに偏った恣意的な行動をすることは出来ません。常に明るい未来を目指して技術の研鑽に励みたいものです。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

なお、下記活動計画のとおり、講演会などを計画しております、皆様の奮ってご参加をお待ちしております。

また、当会では引き続き、会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「新しい年を迎えて」：中大技術士会 副会長 小林 進	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会	3 ページ
■ CO2環境対策技術研究会	3 ページ
■ 部会報告	4 ページ
■ 第5回大学技術士会連絡協議会総会	6 ページ
活動計画	7 ページ
■ CO2環境対策技術研究会	7 ページ
■ その他活動計画	7 ページ
エッセイ	7 ページ
■ 「『サイエンスアゴラ 2012』に参加して」林知幸さん	7 ページ
技術士第二次試験合格者から：	9 ページ
■ 「体験」：萩原弘美さん	9 ページ
■ 「還暦チャレンジ」：水野英治さん	10 ページ
■ 「自分探しの技術士試験 レーティング試験」：林昭一さん	11 ページ
技術士第一次試験合格者から	13 ページ
■ 「大学での成果を形に」：岡本一成さん	13 ページ

■ 「新しい年を迎えて」：中大技術士会副会長 小林 進（情報工学部門、総合技術監理部門）
新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様は除夜の鐘を聞きながら、新しい年をどのような思いで迎えられるでしょうか。私は、後悔しない、後悔させない一年にしたいと思っています。この気持ちは、「後悔しない人生を送るたった1つの方法」の著者、井上裕之氏が「後悔したくない」、「私と係った方に後悔させたくない」という考えで日々を過ごすことにより必ず夢を実現できると言われていることにあります。昨年、暮れに現役を引退した松井秀喜選手も「自分で考えて出した決断に何一つ後悔はない」と言われています。このような人生に一步でも近づきたいと思います。もし、明日で自分の人生が終わる、当たり前を訪れる明日が来ない。このように考えると、何を行うでしょうか。少し気持ちが奮い立つような気がしませんか。



現在、部会長を務めている広報部会では、当会のホームページ、情報提供に使用しているメーリングリストの管理、ニュースレターの発行などを担当しています。すなわち、会員の皆様への情報発信基地ともいえる重要な役割を担っています。ホームページの管理は、私が幹事に就任してから長年担当している業務です。そこで、年頭に少し紙面を頂きましたので中大技術士会の歴史について私の視点で少し振り返ってみたいと思います。

当会は平成16年6月19日（土）に白門技術士会として発足しました。このとき、私には全く声がかかっていませんでした（笑）。初めて参加したのは翌年の総会です。そのとき、会則の審議があり、多くの注文を付けたため幹事にさせられたように思います。そして、最初に行った仕事はホームページの立ち上げです。安価なサーバを探して翌年の1月に立ち上げました。立ち上げるにあたり、Google、Yahooなどの検索でトップに表示させるためにSEO（Search Engine Optimization）について本屋で調べて採用しました。また、会の活動の情報保管庫にすることも目的としています。この記事もサーバにある情報をもとに執筆しています。当会は母校の発展への寄与を一つの目的としており、平成19年5月に白門会の一員になりました。その後、会員数が増え、技術者倫理の講義、理工白門祭への出展など大学での活動が認められて平成23年5月に支部に昇格し、現在の「中大技術士会」という名称に変更しています。これに合わせるかのように、これまで使用していたサーバが停止することになり、年内に切り替える必要が生じました。そこで、支部に昇格したこともあり、中央大学出身の技術士、修習技術者の集まりであることを示すドメイン名に変えることにしました。これが、現在使用している「chuo-u-pej.org」です。前半の「chuo-u」は中央大学、後半の「pej」は技術士すなわち「プロフェッショナルエンジニア」を示すドメイン名にしました。そして、会員の皆様に情報提供するためのメーリングリスト、幹事会への連絡用メールアドレスも新しく設けています。また、試行的ですが会員相互の情報交流が図れるように無料の掲示板も立ち上げしていますが、現在、殆ど使用されていません（泣）。当会は活動の中心が東京のため、遠方の方は参加が難しいと思います。そのような方との距離と時間を越えた交流の場としてホームページ、掲示板を有効に活用して頂けたらと思います。

今年は、十二支の中でも脱皮する干支です。会員の皆様にとって、この一年が今までと一皮違った良い年になることを祈念しています。今年も、中大技術士会をよろしく願います。

活動報告

■ 幹事会

本会では、概ね月に一度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成 24 年度 第 5 回幹事会	2012 年 11 月 6 日 (火) 18:30~20:00	<ul style="list-style-type: none"> 各部会から活動報告があった。 CO₂環境対策技術研究会から「研究会」「幹事会報告」があった。 10月4日、中大法曹会との交流会が行われた報告が企画部会からあった。 10月19日、生命科学科：原山教授による講演会「*バイオテクノロジーとは何か？」が行われた報告が企画部会からあった。 「筏プロジェクト」の経過について、中尾幹事から報告があった。 電気電子情報通信学科橋本教授との交流について、國島幹事から報告があった。 ホームカミングデーが10月28日多摩キャンパスで行われ内藤企画部長から報告があった。(新入会者を複数迎えるなどの成果があった) 理工白門祭が11月2~4日行われた内藤企画部長から報告があった。

■ CO₂環境対策技術研究会

本研究会は、地球規模の課題となっているCO₂対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つCO₂対策に関する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることを目的としています。詳しい報告は本会HP (<http://www.chuo-u-pej.org/>) をご覧ください。

行事名	開催日程	活動概要
第15回研究会 参加者：見学会 16名 交流会 15名	H24年11月30日(金) 見学会 13:00~17:00 交流会 17:30~19:30	見学：キッコーマン(株)もの知りしょうゆ館他 講演1：「しょうゆ・キッコーマンの歴史」 キッコーマン(株)食文化研究センター長 長原 歩様 講演2：「キッコーマン(株)の環境活動」 キッコーマン(株)環境部長 今井靖彦様 交流会：さくら水産柏西口店
H24 第 3 回幹事会 参加者：幹事 5 名	H24 年 12 月 20 日 (木) 18:30~20:00	第 15 回研究会 (キッコーマン) の報告 第 16 回研究会 (金沢文庫総合車両) の企画 話題提供：加藤幹事「歯科医療と応用化学及び主として従事してきた業務について」

■ 部会報告

○広報部会

項目	内容
サーバー運営	①HP の障害対応 <ul style="list-style-type: none"> 中国からの不正侵入により HP が改ざんされ表示できないトラブル発生。改ざんされたファイルを修復し正常に閲覧できるように復旧 11/18～11/19 にかけて HP にアクセスした方はウィルスに感染した可能性があるため会員にウィルスチェックを行うように通知 ②新規入会者のML 登録および連絡先変更者の対応 <p><u>就職、転勤、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会にお知らせください。</u></p> ③理工学部 Web ページのリンク先変更の対応
ニュースレターの発行	ニュースレターNo.18 の作成および発行
HP 新規掲載	①ニュースレターNo.17 の掲載 ②CO2 環境対策研究会第 15 回研究会報告書掲載 ③第 3 回中大技術士会主催講演会開催の案内を掲載 ④幹事構成一覧の修正 ⑤幹事会開催案内掲載

○総務部会

項目	内容
総会・幹事会の開催、運営	○第 8 回定時総会を後楽園キャンパス 5333 教室での開催運営 <ul style="list-style-type: none"> 会員 30 名参加、白門化学クラブなどの来賓を迎えた。 電気電子情報通信学科：橋本先生による特別講演の準備 中大公認会計士会支部などの参加案内および懇親会の準備
名簿の管理、会計管理	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な名簿の管理を行っている。 12 月末日現在、会員数は技術士 182 名、技術士補 31 名、準会員 8 名
学会事務局との連絡調整	学会会時報に「年賀広告」依頼があり、掲載することにした。 広告は、中大技術士会とCO2環境対策技術研究会の連名で掲載する。 広告料は 1 万 5 千円で両会折半とする。
大学技術士会連絡協議会との連携に関する調整	<ul style="list-style-type: none"> 大学技術士会連絡協議会との連携に関する調整を行った。 11 月 13 日(火)に第 5 回大学技術士会連絡協議会総会が開催され、金川会長、林幹事長が参加した。参加 18 大学より 1 年間の活動報告があった。 佐藤幹事より当協議会よりの会員数、年会費等の情報提供※に関する報告があった（次ページ参照）。

※大学技術士会連絡協議会の会員数及び年会費等

順不同

2012年11月現在

No.	大学名	技術士会名	人数	会費		会誌発行
				入会費	年会費	
1	中央大学	中大技術士会	240名	0	0	ニュースレター（年4回）
2	九州工業大学	九州工業大学技術士会	96名	0	0 H23年度企業技術士会賞受賞金を充当	予定なし、HPで代行
3	慶應義塾大学	慶応技術士会	118名 賛助会員4名	0	0	なし
4	工学院大学	工学院大学技術士会	62名 準会員900名	0	0	なし
5	室蘭工業大学	水元技術士会	約300名	0	0 同窓会からの助成金のみ	水元技術士会通信（年1回）
6	芝浦工業大学	芝浦技術士会	約210名 二次合格：150名 賛助会員：10社	0	0 賛助会員のみ1口：2000円/年	なし
7	摂南大学	摂南大学技術士会	62名 準会員：0名	0	1000	なし
8	千葉工業大学	千葉工業大学技術士会	119名 特別会員：3名 賛助会員：1社	0	3000	年間1回
9	早稲田大学	早稲田大学技術士稲門会	355名	0	2000	第4号発行済み
10	大阪工業大学	大阪工業大学学園技術士会	推定900名 活動会員：100名	0	1000 H25年度より若干増額の予定	なし
11	大阪大学	大阪銀杏技術士会	58名	0	0 当分の間無料とする	なし
12	東京都市大学 旧武蔵工業大学	東京都市大学 柏門技術士会	360名	0	5000	年1回発行
13	東京工業大学	蔵前技術士会	193名 技術士：147名 次合格：3名 技術士以外：43名	0	0	創設1989年以来5年目毎に記念誌を発行
14	東北大学	技術士青葉会	59名	0	1000	会報年1回
15	日本大学	桜門技術士会	228名 正会員：218名 準会員：10名 賛助会員：1社	0	正会員：年間5000 準会員：2000 賛助会員：2万円以上	創設時より「桜門技術士」を41号で廃刊。会員数増加でHP中心の活動に変更。代わりに「桜門技術士便り」を年4回発行。
16	名古屋工業大学	名古屋工業大学 ごきそ技術士会	72名	1000	0	なし
17	名城大学	名城大学技術士会	正会員：112名 準会員：48名 賛助会員：1社 特別会員：5名 特別役員：15名	0	正会員：3000 準会員：1000 賛助会員：5000 高齢会員：1000 学生：0	なし
18	東京理科大学	理窓技術士会	約70名	0	首都圏地区会員：5000 首都圏以外居住会員：2000	「理窓技術士会通信」年2回 その他特集号発行

○企画部会

項目	内容
ホームカミングデーへの出展	日時：H24年10月28日（日）10：30～15：30 八王子校舎メイン会場前 テントで「技術無料相談会」及び「技術士（同補）受験相談会」として出展。燃料電池やスターリングエンジンの模型展示を行ったが、生憎の雨で見学者は少なかった。
白門祭への出展	日時：H24年11月2日（木）～4日（日）10：00～17：00 後楽園校舎6号館1階ロビーで、「技術無料相談会」及び「技術士（同補）受験相談会」として出展。燃料電池やスターリングエンジンの模型展示を行いながら、学生等の相談に応じた。

○大学支援部会

項目	内容
科学技術と倫理	1年生を対象に2コマの講義を下記の2名が担当することで、理工学部事務室試験・授業担当と事務処理を進めている。 ・「技術者倫理の変遷科学技術倫理の昔と今」講師 相澤謙次 ・「銀行券自動一貫処理システム安定稼働維持への技術的アプローチ製造業における品質保証と技術者倫理」講師 染谷繁実
技術者倫理	都市環境学科必須科目（4年生対象）を4月から7月において実施する。講義が3年目となる、新講師として加藤行勝さん、中尾愛人さんの2名に更新するなど理工学部事務室試験・授業担当と事務処理を進めている。

■ 第5回大学技術士会連絡協議会総会

○日 時：11月13日（火）14時30分～17時（17時30分～懇親会実施）

○場 所：日本技術士会 萱手第二ビル5階 AB会議室

○参加者：金川会長、林幹事長

○主 旨：大学技術士会連絡協議会の活動主旨は、以下のとおりである。

- ①質の向上・技術士倫理の徹底を図り、自己研鑽並びにCPD・IPDに関する情報交換、意見交換を行う。
- ②大学と協力し、産学連帯を図り、構築したネットワークを活用しながら、学生・院生・学員の自己実現に向けた支援を行う。

○経 緯：大学技術士会連絡協議会は、中央大学、武蔵工業大学（現東京都市大学）、早稲田大学の3大学の技術士有志が発起人になり、2008年11月20日に14大学（中央大学、武蔵工業大学、早稲田大学、東京工業大学、日本大学、東京理科大学、千葉工業大学、工学院大学、東北大学、大阪工業大学、摂南大学、名城大学、芝浦工業大学、慶応義塾大学）が参加し、設立総会が開催された。設立総会参加時14大学であったが、第5回総会時までに4大学（九州工業大学、室蘭工業大学、大阪大学、名古屋工業大学）が新たに加わった。

具体的な活動としては、講演会の開催、技術士一次試験合格者に対する技術士二次試験受験案内、大学技術士会への入会案内、総会の開催等である。

○内 容：参加18大学より1年間の活動報告があった。

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ CO2環境対策技術研究会

行事名	開催日程	活動概要
H24 第4回幹事会	H25年2月7日(木) 18:30~20:00	第16回研究会(金沢文庫総合車両)の応募状況 話題提供:内藤幹事長「化石燃料を使わない発電 構想」
第16回研究会	H25年4月18日(木) 見学会 13:00~17:00 交流会 17:30~19:30	(株)総合車両製作所 演題:「未定」 交流会:「未定」

■ その他の活動計画

行事名	開催日程	活動概要
技術士ガイダンス	一次試験申し込み期間中	場所:中大理工学部 内容:一次試験受験に関するガイダンス(全学科 を対象) ・受験申込書の書き方、試験概要 ・勉強方法、合格者からのメッセージ
平成24年度 第6回幹事会	2013年1月22日(火)	・年間総括 ・講演会(1月25日)、技術士ガイダンス、等
中大技術士会 H24 第3回講演会	2013年1月25日(金) 講演会 18:00~19:30 交流会 19:30~20:30	場所:中央大学後楽園校舎6号館6402号室 講師:中央大学理工学部物理学科杉本秀彦教授 演題:「ひかりの話」

上記以外にも、幹事会(ほぼ毎月開催)や多くの行事を開催します。また、「大学との折衝」「各学部との交渉」なども行います。会員の皆様にも気軽にご参加いただきたく、役員・幹事一同お待ちしております。

エッセイ

今回は、本会の幹事長でもあります林さんから、日本技術士会、科学技術振興支援実行委員会の一員として参加した「サイエンスアゴラ2012」について報告してくださいました。

■ 『サイエンスアゴラ2012』に参加して: 林知幸さん(上下水道部門)

2012年11月10日~11日、科学未来館(東京:お台場)にて、「サイエンスアゴラ2012」が行われ、科学者を目指す小中高生がたくさん訪れました。

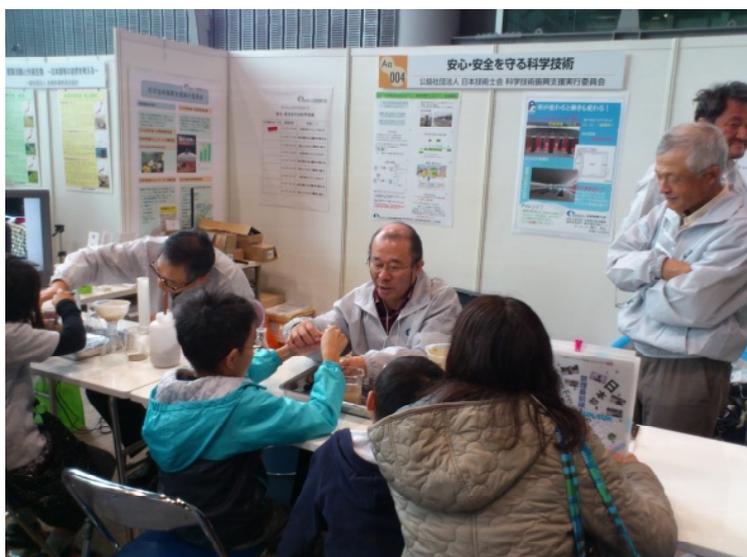
私は、日本技術士会、科学技術振興支援実行委員会の一員として参加しました。その様子を以下に述べます。詳細は月刊「技術士」に掲載される予定です。

当委員会は子供たちに「科学の夢」を与えるため「安心・安全を守る科学技術」をメインテーマに3種類の公開実験を行いました。実験テーマと講師の一覧を示します。

表に示したように、「水をきれいにしよう」は、浄水場の働きを汚れた水に凝集剤を添加して“浄化”を体験してもらう実験。「形が変わると働きが変わる」は、一枚の紙をどのような形にすれば多くのコインを載せられるかを体験してもらう実験。「さわってみよう電気と磁力」は、静電気と磁力を多くの基剤をさわって体験してもらう実験。いずれも、小中高校生身の回りで応用されている「科学」の基礎を学んでもらう内容でした。

実験テーマ	講師
水をきれいにしてみよう	久芳 良則 衛生工学・総合技術監理
形が変わると働きが変わる	関口 芳弘 電気電子、理化学研究所
さわってみよう電気と磁力	亀尾 恭司 電気電子

私は、「水をきれいにしてみよう」のテーマの応援講師として参加しました。小学校における「理科支援員」の経験が役立っています。各テーマを1日3回(約30分の持ち時間)行いました。私の担当テーマは、10分程度で終わりますが、最大4組を行うことも再三あり、ガラス器具の洗浄を多くのスタッフに手伝っていただき、無事終わることができました。水を汚す材料として、講師の出身である栃木県益子から陶器の材料である「粘土」を使用しました。ろ紙(コーヒー用ろ紙)を素通りするほど微細な粒子であり、汚染物質として最適でした。



その一場面を写真で示します。本写真は、当会小柳幹事撮影によるものを使用しました。



また、このサイエンスアゴラの会場になっている「日本科学未来館」の館長である宇宙飛行士毛利衛さんとの記念撮影を掲示します。

本行事は、文部科学省→科学技術振興機構(JST)が企画し、日本技術士会の社会貢献委員会および科学技術振興支援実行委員会が実行部隊として昨年に引き続きブースを構えて実施しました。

今後も、「科学を」見て、触れて、感動する、子供たちの理科離れを食い止め、理科を好きになってもらう企画に賛同して参加していきます」。多くの会員の皆様からご意見を頂戴したと思います。

技術士第二次試験合格者から

矢板市在住の萩原弘美さん、浜松市在住の水野英治さん、そして金沢市在住の林昭一さんから、技術士試験合格体験談をいただきました。多くの一次試験合格者にとって大変参考になります。ありがとうございます。

ほかの会員の皆様も、様々な合格体験談や勉強法をお待ちしております。

■ 「体験」：萩原 弘美さん（機械部門）

皆様はじめまして、萩原弘美と申します。理工学部精密機械工学科を昭和 56 年に卒業し、現在栃木県の片田舎で設計事務所を営み、生産設備関係の設計を主に行っています。54 歳の私がどの様にして技術士試験に合格できたかについて書かせて頂きます。



1 受験の動機

機械設計を始めて 30 年が過ぎ、今だ 100% 満足に行く仕事が出来た事がありません。「良い物を作りたい」、「高度な技術力を学びたい」との思いから資格試験に挑戦する事により、自分の技術力不足を補うことが出来るのではないかと思ったわけです。これが私の技術士資格取得のきっかけです。（平成 20 年技術士 1 次試験受験、この時まで技術士の存在を知りませんでした。）

2 受験の準備、学習方法

私の学習方法は、過去の問題を活用することによって、試験で問われている事は何か？から初め、自分に不足している部分を補強することを主に、日常生活の中で学習のためにまとまった時間をとることがなかなか難しく、モチベーションを維持し、無理なく継続して少しずつ学習することを心掛けました。そこで多くの問題を解く（論文を書く）のではなく、過去の問題に対する解説本を購入して問題の捉え方、論文の書き方をじっくり学習しました。そのことによってある程度問題に対して的確な論文がかけられるようになり、さらに横展開して専門技術の知識を学習していくことにしました。（自己満足の世界）そしてこの時ほどインターネットの有難さを感じたことはありません。キーボードを叩けば知りたいことがすぐに入手できます。

また、継続して学習するためには、無理のない学習計画を立てモチベーションを維持することが重要だと考え、時間的な制約がある中で、自分の得意分野、不得意分野をしっかりと把握して効率的な学習を心がけ、毎日継続して学習することにしました。

3 受験の感想

私は技術士二次試験を 3 回受けました。

1 回目は筆記試験で不合格でした。（必須科目 B, 専門科目 A 学習方法は間違っていないと確信しました。）2 回目は口頭試験で不合格でした。（口頭試験を甘く見ていました。）3 回目にして合格することが出来ました。

この 3 回の受験を通して積み上げた学習は無駄ではなかったと思っています。そして諦めずに続けることが重要であることを感じました。（技術士試験にチャレンジしている皆さん諦めずに続けてください。必ず合格できます。）私も 24 年度総合技術監理部門の 1 回目のチャレンジを行いました（まだまだチャレンジが続きそうです）。

4 最後に

科学技術は日々進歩しており、社会環境も目まぐるしく変化しています。このような環境にあるからこそ、技術の基礎を踏まえておくことが重要であり、その上に新しい技術を学び常に自分に技術力を向上させながら、「少しでも社会に役立つものを作りたい気持ちを持ち続けることで社会に貢献できる」と考えています。今は技術士の名前がとても重く感じ、仕事のひとつ、ひとつに責任感をとても感じる毎日です。

私も本年中大技術士会に入会させていただきました。先輩技術士の方々に御指導いただき生涯技術者で在りたいと思っています。以上

■ 「還暦チャレンジ」：水野英治さん（上下水道部門、総合技術監理部門）

昭和50年に大学（精密機械工学科）を卒業後、郷里に近い浜松市役所に職を得ました。最初の配属先は下水道終末処理場の作業現場です。浜松市では昭和30年代後半に下水道事業に着手し、昭和41年10月に下水処理を開始しました。当時は、処理開始後10年になろうとする頃で、流入する下水も徐々に増え、処理能力の拡充や維持管理体制の構築が急務とされていた時期です。



処理場の維持管理には、電気、機械、化学や生物など多様な技術者が必要とされていますが、作業の現場では、施設の運転に不可欠なボイラー技士や高圧ガス作業主任者、玉掛け技能者などの資格者の配置が大きな課題となっていました。私も危険物取扱者や公害防止管理者など、担当する業務に必要とされる資格の取得に努めましたが、「技術士」については職員間で話題に上ることもなく、その当時はどのような資格なのかも全くわかりませんでした。

技術士資格の存在を知ったのは終末処理場から下水道の建設・計画部門への異動後です。異動後の職場に技術士資格をもつ上司がおり、その上司から資格取得を強く勧められたのが受験のきっかけでした。受験の準備をはじめてすぐに感じたのは下水道全般の知識の不足です。そこで、その年は技術士の受験をあきらめ、下水道施設設計指針や下水道協会誌などの専門誌を読み込むこととし、先端の技術、課題などの把握に努めました。翌年（平成3年）、不安はありましたが初めての技術士試験（下水道）に臨み、幸いにも合格することができました。上司と職場の仲間からの祝福を受け、誇らしい気持ちになったのを思い出します。

その後、技術士の新たな部門として総合技術監理部門が創設されましたので、これに思い切ってチャレンジすることとしました。下水道の職場を離れて数年、50代半ばの受験です。それなりに結果を期待していたのですが、論文試験の結果は無情にも不合格、さすがにがっかりしました。

資格の取得をあきらめたわけではありませんでしたが、人事異動等も重なり、勉強の時間もなかなか確保できないことから、結局、捲土重来を期しての再チャレンジは定年後となってしまいました。テキストは以前と同様、日本技術士会から出版されている「技術士制度における総合技術監理部門の技術体系」ですが、最近の試験の傾向を踏まえ、新聞や雑誌等に取り上げられる旬の話題（自然環境、労働環境など）にも注意を払うこととしました。

退職後の実質半年間余りの学習期間でしたが、とにかく合格ラインに達すればよいと厚かましくも楽観的に考えて受験（平成23年）に臨みました。論文試験、口頭試験を経て、合格の通知を受け取ったときは、心からほっとするとともに、ようやく積年の課題の一つを解決できたとの思いがしたものです。

現在は現役を退き非常勤職員として市役所に勤務する身ですが、今後も「学ぶのに年を取りすぎたということはない」を座右に、自分の興味を持てる分野で、幅広く楽しく勉強を継続していきたいと考えているところです。最後に中大技術士会の皆様のますますのご活躍をお祈りし、筆を置くこととします。

■ 「自分探しの技術士試験 レーティング試験」：林 昭一さん（上下水道部門）

現在、私は金沢市役所に勤務しておりますが、入庁後 30 年余りが過ぎました。これまでの経歴を振り返りますと、まず、最初に配属されたところでは、主に道路改良事業を 6 年間担当しました。次に人事異動で都市計画街路事業を 4 年間担当することになりましたが、ここでは橋梁や大型構造物などの監督にもたずさわりましたが、最も印象深かった工事は、市中心部に程近い住宅地で台地の段丘斜面に片盛土で 4 車線の街路築造を担当したことでした。当時は、まだ施工例も少ないテールアルメ工法で、延長 150m、高さ 8m の街路築造工事の設計積算、発注・現場管理など監督をしました。その後、開発規制等の行政事務を 3 年間担当した後、河川改修事業と雨水対策事業の計画や工事発注などを 5 年間担当しました。

次に、金沢駅周辺で、土地区画整理事業による市街地開発を担当することとなりましたが、この事業は金沢駅東広場を区画整理事業地内に含めて、地下広場と地上広場を同時に整備し、あわせて地上の駅東広場には、米国の旅行雑誌「トラベル・レジャー」のウェブ版で、「世界で最も美しい駅」の一つに選ばれたガラス張りのもてなしドームと鼓門などもあわせて整備するとともに、加えて、駅東広場地下には、地下広場を整備し、また、民間鉄道の始発駅を地下化して移設するなど、大規模な市街地都市土木に 3 年間従事しました。

この後、公営企業である金沢市企業局に異動となりました。金沢市企業局は、私が異動となったその年に、全国的にも実施されていた上下水道の一元化により、下水道事業が市長部局から企業局に組織改変されました。金沢市企業局は、上水道、下水道、工業用水道の 3 事業に加え、公営ガス事業や発電事業のあわせて 5 事業を担っているところです。金沢市企業局で、はじめの 2 年間は主に水道事業で、中山間地地域における水道未普及地域解消事業を担当しました。その後の 5 年間は下水道事業で、処理場増設工事や下水道計画を担当しました。特に、下水道計画では、循環の道を目指す持続可能な循環型社会の構築のための施策として、汚泥焼却灰をアスファルトフィラーとして有効利用、消化ガスを精製して都市ガスへと供給、処理水の熱エネルギーを活用した消雪水としての有効利用、緊急合流改善事業、耐震対策、耐水対策、改築更新と長寿命化計画等々、下水道の直面する諸課題と、これからのあり方について計画・実施する仕事にたずさわって、下水道の奥深さに興味を持つようになりました。このような折、企業局 7 年目のとき、近年多発する局所的集中豪雨により、合流区域を抱える下水道処理場内で深刻な冠水事故が発生し、雨水ポンプ場を含め汚水・汚泥処理施設の一部が機能停止し、運転不能に陥る事態となりました。この冠水事故の原因の究明と再発防止に向けた第三者による調査委員会を設置されましたが、コンサルタントに委託して資料作成するとともに、現場では応急復旧工事、本格復旧工事を開始し、同時に都市災害として認定を受けるため、災害査定用の資料作りなどに追われる毎日でした。

その翌年、河川事業と下水道雨水事業を担当する部局に 1 年間、さらに危機管理部局に 2 年間勤務した後、再び河川事業と下水道雨水事業を担当する部局に戻り、現在に至っております。

以前、技術士を受験しようと思った時期がありましたが、道路事業にある程度の期間従事したこともあり、先に述べたテールアルメ工法に関連した部門で受験しようかとも思っていました、単なる思いだけで終わってしまいました。金沢市役所だけではないと思いますが、地方自治体では、技術士を取得したからといっても何ら手当てになど経済的な優遇もなければ、人事異動に直接影響する訳でもなかったこともあり、真剣に受験しようとの思いにつながらなかったように記憶しています。その後、河川事業や都市計画などを担当し、いったい自分の専門とするものは何なのかと考えていた折、下水道事業に出会い、今度こそはと、この部門での受験を考えた次第であります。また、下水道に関して自分の実力の程を知り、いわゆる自分自身で自分を格付けする良い機会とも考えた次第です。50歳を過ぎてからの受験は、さすがに厳しいというか、物覚えが悪くなり、数字や漢字に苦労しながらの受験でしたが、3度目での合格となりました。

北陸、金沢は、冬が近づく季節となりますと、天気の良い日が多くなります。そのため、春や秋を中心に、しかし夏はさすがに汗だくとなりますので頻度はめっきり少なくなります。健康のため、できるだけ昼休みに散歩に出かけるようにしています。職場から程近い金沢城公園の中や兼六園周辺を30分程度散歩しております。雨などが降りますと外には出られないため、市役所庁舎と地下で連絡されている金



金沢城公園 二の丸広場にて昼休みの散歩中。
後ろの建物は、五十間長屋ですが、屋根が白いのは、鉛瓦で葺かれているためです。

沢 21 世紀美術館の館内を 2~3 周するコースに切り替えて、散歩にいそしんでいます。ちなみに、金沢へは平成 26 年度、約 2 年後に北陸新幹線が延伸されます。東京から 2 時間 28 分の直通で金沢に来ることができるようになります。先に述べた金沢駅東広場のもてなしドームや 21 世紀美術館、「世界で最も美しい公共図書館ベスト 25」に選ばれた金沢海みらい図書館を始め、鈴木大拙館、兼六園、金沢城公園、ひがし・にし茶屋街、武家屋敷などなど、見所もある金沢に機会がありましたら是非、お越しになってください。

技術士第一次試験合格者から

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は、化学部門で一次試験に合格した岡本一成さんに書いていただきました。1～2年先が読めない現在の社会情勢ですが、ぶれずにしっかり頑張ってください。

■ 「大学での成果を形に」：岡本一成（化学部門）

こんにちは。応用化学科 固体化学研究室 修士2年の岡本一成と申します。技術士第一次試験は大学4年の時に受験し、合格しました。今回はその時の話をさせていただきます。

1 受験の動機

大学3年になり、これからの進路を考えるにあたってこれまでの大学生活を振り返ることが多くなりました。この振り返りを行ううちに今までの学習成果を形にしたいと思うようになりました。そんな時に白門技術士会（当時）が開催する技術士ガイダンスで技術士のことを知り興味を持ったのと、一次試験の内容が今まで学んできたことを形にするのにちょうどよいと感じたからです。



2 準備

試験の準備を始めたのは試験日の2か月ほど前です。はじめに過去問を入手し出題内容をチェックしました。試験科目は、基礎、適正、共通、専門の4科目。適正は過去問を何度かやればわかる内容であり、多くの時間を割く必要はないと感じました。また共通は高校から大学1年までの基礎的な内容なので、昔使っていた教科書を引っ張り出して勉強することにしました。この2科目は特に苦戦することはなく順調に進みましたが、基礎と専門科目で苦戦しました。この2科目に共通していたことはとにかく範囲が広いことです。そのため、全範囲を網羅することはできず、過去問を解いては疑問点を調べ、問題を解いては調べを繰り返して少しずつ知識をつけていくことにしました。

3 受験後

合格発表の時に自分の番号があるのを確認してほっとしたのを覚えています。点数としては基礎がギリギリ、その他はだいぶ余裕がありました。苦戦した専門科目で高得点をとれてよかったと思いました。

試験に合格後は、中大技術士会のCO2環境対策技術研究会に参加させていただき、実際に稼働している工場や施設などを見学し、そこで働いている方々の話を聞く等、大学に在籍するだけでは出来ないことを体験しています。また、研究会に参加している技術士の方々に触れ、技術士の心構えや知識の多さに感銘を受けています。自己研鑽のために受けた試験だったのですが、受験後に技術士の方々との交流を通じて技術士の奥深さに気づき、2次試験に向けて日々努力を重ねています。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2012年5月号 中大技術士会 広報部会 発行